

令和8年度 江戸川区立一之江学校 学校関係者評価報告書

学校教育目標	◎進んで学習する子 ○思いやりのある子 ○明るく元気な子			目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	保護者・地域の理解と協力を得て、子どもたちに確かな力を育み、信頼と誇りのもてる学校 自分から進んで確かな学力、豊かな心、健やかな身体を身に付け高めようと取り組む子ども より質の高い授業、教育活動をめざし、子どもに寄り添い、子どもの喜びや悲しみを自分の喜びや悲しみにできる教師
前年度までの本校の現状	成果	・情報活用能力育成研究校として、情報活用能力表（一之江モデル）の作成、活用などを進め授業の改善・充実を進めることができた。 ・仮校舎での生活、スクールバス通学が続く中、安心・安全を第一に教育活動を進めることができている。			課題 ・令和9年4月の新校舎運用開始を契機に、学校運営、教育活動の改善・充実を推進する。 ・区の学力強化校の取組を中心に、学力向上を進め、児童の自信と意欲を高める。 ・配慮を要する児童への支援を充実する必要がある。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価（A～D）		「中間」 学校関係者評価（A～D）		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた 改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
確かな 学力の 育成	○自らすすんで学ぶ態度の育成	・習熟度別学習、教科担任制等の実施 ・1人1台端末の効果的な活用	・授業がわかりやすいという児童90%以上	94%		A	1年生から習熟度別指導を展開したり、教科担任制の枠を広げたりするなどして取組の充実を図っている。	A	よりきめ細やかに授業を進めようとされていることがよくわかる。いろいろな先生とかわり力を伸ばす時代だと考える。					
	○基礎学力及び学習習慣の定着	・学力強化校の取組の推進 ・区、国の学力調査の活用 ・放課後補習等の実施	・学力を高めようとしているという児童90%以上	88%		B	区の学力強化校として5年を中心に児童のアイデアを取り入れた学力強化策を展開している。国の学力調査においても概ね良好の結果である。	B	子どもたちが考え、取り組んでいくという進め方がよい。「やらされている」という気持ちではなかなか力は高まらない。今後にも期待したい。					
	○読書科の推進	・探究的な学習（調べる学習）の推進 ・学校図書館活用の充実	・学校や家で本をよく読むという児童75%以上	69%		C	講師を招き、調べる学習について教職員が学び、それを実践につなげつつある。読書への働きかけも進めた。	B	家庭へのはたらきかけも何かできないだろうか。家に本がないことが当たり前の時代になってきているので。					
健やかな 身体 の 育成	○自らすすんで体力を高めようとする態度・意欲の向上	・体力テストへの取組、活用の推進 ・なわ跳びの推進	・体力を高めようとしているという児童90%以上	89%		B	運動会や水泳指導を中心に体を動かす機会の充実を図っている。日々の授業の改善・充実を進めていく。	B	制約の多い中、さまざまな工夫を図られている。やればできるという実感を子どもたちに持たせたい。					
	○自らすすんで健康・安全な生活を送る力の向上	・歯の健康にかかわる取組の推進 ・多様な給食の実施	・健康な生活を送ろうとしているという児童90%以上	85%		B	歯の健康や豊かな食事にかかわる取組を進めている。児童の意識を結果につなげるようにしていきたい。	B	家庭での歯磨きの状況はどうだろうか。学校はきっかけ作りの場であり、日々の取組はやはり家庭である。					
豊かな 心の 育成	○主体性、自主性を育む取組の推進	・委員会活動、クラブ活動や異学年交流などの充実 ・行事等の児童実行委員会による企画・運営	当番や係活動、委員会活動に進んで取り組んでいるという児童90%以上。	89%		B	5、6年生を中心に実行委員会主体の取組が定着してきた。さらに拡充を図り、子どもが自らつくる活動、学校をめざしていく。	A	子どもたちが考えて、子どもたちが進めていく機会が増えていて好ましい。運動会などでも子どもたちが楽しんでいる様子がたくさん見られた。					
	○健全育成の推進	・いじめ防止、不登校対策等の組織的な推進 ・基本的生活習慣の系統的な育成	・相手の気持ちを考えて行動しているという児童85%以上。。	87%		B	いじめの早期発見、解決を進めた。関係者と連携し不登校児への支援を進めている。引き続き未然防止、早期対応・解決をめざす。	A	子ども同士のトラブルはあると思うが、自分たちで解決できない子どももいる。できるだけ速やかに解決しようとする学校の姿勢を認めたい。					
	○個に応じた指導の充実	・巡回指導をはじめとする人材、資源等の活用 ・校内委員会を中心とした支援の充実	・配慮を要する児童への支援が適切に行われているという教員80%以上	94%		B	介助員の配置が減ってくるなど状況の改善が図られてきている。担任だけでは対応困難な事例も学年等で連携して取組を進めている。	A	さまざまな課題のある子どもたちが増えていると聞く。支援のスタッフも入っているようだが、子どもの困難、教員の困難が軽減されるとよい。					
	○日本語指導の充実	・日本語学級での指導の充実 ・理解啓発の促進	・配慮を要する児童への支援が適切に行われているという教員80%以上	94%		A	日本語学級では30名を超える児童が学んでいる。在籍学級での学習、生活の改善につながっている児童もみられている。	A	日本語学級は学校の特色の一つである。いろいろな国のさまざまな文化に触れ親しむような機会をもつことなどもできればよいと思う。					

学校安づくり安心の推進	○安心・安全な学校づくりの推進	- さまざまな災害等を想定した訓練の実施 - 食物アレルギーへの対応を含めた事故防止の徹底	地震や火災のときの自分の身の守り方がわかるという児童90%以上。	92%		A	都内小学校での火災を受け、避難訓練の改善、防火、避難の体制、施設管理の見直しなどを進め、安心・安全な学校の実現に努めている。	A	訓練の改善など必要な取組を進めてほしい。まさか、というような事故が現実のものになっている。想定外にも対応できるような準備をお願いしたい。					
	○登下校の安全確保の徹底	- スクールバスの安全な運行の徹底 - 新校舎運用に伴う登下校指導の推進	学校は安全に配慮した教育活動を行っているという保護者90%以上	88%		B	スクールバスの安全運行を維持している。関係者ともよく連携し、次年度に向けた準備を着実に進めていきたい。	A	バスが安全に運行されているようでよい。あと半年くらいになってきたが、最後まで安心な運行を願う。新校舎への準備も適切に進めてほしい。					
積極的な情報発信、家庭・地域への連携・協働の推進	○積極的な情報発信	- 学校のホームページの毎日の更新 - 全校保護者会、学校説明会等の充実	学校はホームページ等で積極的に情報発信をしているという保護者90%以上。	93%		A	ホームページの毎日の更新を進め多くの閲覧がある。学校からの情報発信が保護者の安心につながっているようである。	A	学校のホームページからたくさんの情報を得ることができ、保護者も安心していると思う。仮校舎でも様子がよくわかるような工夫がよい。					
	○家庭、地域との連携・協働	- P T Aとの連携・協働の推進 - 学校評価の充実	学校は意見や要望等を教育活動に生かしているという保護者80%以上。	81%		B	P T Aが積極的に学校の支援を進めており、児童の安全や体験的な活動の機会などを得ている。保護者の声をさらに反映するよう努めていく。	A	P T Aが過渡期を迎えているようだが、学校を応援するという輪を広げていきたい。特に新校舎落成という大きな節目が活性化のきっかけになるとよい。					
教職員の資質・能力の向上、業務の効率化の推進	○教員の資質・能力の向上	- 教員一人一人のニーズに応じた研究・研修の推進 - 授業改善の推進	資質・能力の向上に努めているという教員90%以上。	100%		A	教職員がより主体的に学び、指導の改善・充実を図ることができるよう取組を進めている。若手の育成等も計画的に進めている。	A	若い教員も多い中、その力を伸ばしていくことは学校の大きな課題であるとする。次の世代を育成していくような取組を続けてほしい。					
	○働き方改革の推進	- 会議等の効率化、組織改革の一層の推進 - ペーパーレス化の一層の推進	時間外勤務の縮減に努めているという教員90%以上。	100%		A	会議の効率化、ペーパーレス化などが進み、時間外勤務の縮減につながっている。	A	働き方改革が進んできているように感じる。子ども向き合う時間の充実につながっていくことを期待する。					